

夢のあふれる仕事をしよう。

ロハスピープルのための快適生活マガ

# ソトコト

S O T O K O T O

6

June 2011

No.144

800YEN

地域力! 社員愛! 人間らしさ!

## 60の誠実な 会社の話 2

companies doing the right thing

ゴミ、捨てん



## 有限会社 ネオ昭和

[新潟県十日町市]

## 現代風「からむし」で地域を元気に!

朝鮮半島から伝わり、江戸時代には越後縮の原料として現在の新潟県十日町市でも盛んに栽培された「からむし」。化学繊維の普及とともに存在価値は薄れつつあったが、ネオ昭和の社長・村山好明さんが現代風にアレンジ。からむしの性質を活かし、タオルや靴下を開発。5月には若者向けの浴衣も発売する。食品としても活用しようと、からむしパウダーを練り込んだ「からむし麺」を発売。生

葉を使ったキムチも開発する予定だ。

衣、食とくれば、次は住。早稲田大学大学院の学生やOBが、十日町に残る築100年の作業小屋を改修し、「からむしの部屋」を製作中だ。2012年開催予定の「第5回越後妻有大地の芸術祭」の出品を目指している。

「からむしの故郷・韓国との交流も深め、十日町を元気にしたい」と、村山さんはからむし商品の開発と普及に努める。



左／大阪東洋きもの専門学校の学生たちが、からむしの苗を植え付け。上／皮から繊維を取り出す「芋引き(おひき)」という作業を行う十日町の人たち。

31

upright company

有限会社 **ネオ昭和**

[新潟県十日町市]



### 現代風「からむし」で地域を元気に!

朝鮮半島から伝わり、江戸時代には越後縮の原料として現在の新潟県十日町市でも盛んに栽培された「からむし」。化学繊維の普及とともに存在価値は薄れつつあったが、ネオ昭和の社長・村山好明さんが現代風にアレンジ。からむしの性質を活かし、タオルや靴下を開発。5月には若者向けの浴衣も発売する。食品としても活用しようと、からむしパウダーを練り込んだ「からむし麺」を発売。生

葉を使ったキムチも開発する予定だ。衣、食とくれば、次は住。早稲田大学大学院の学生やOBが、十日町に残る築100年の作業小屋を改修し、「からむしの部屋」を製作中だ。2012年開催予定の「第5回越後妻有大地の芸術祭」の出品を目指している。「からむしの故郷・韓国との交流も深め、十日町を元気にしたい」と、村山さんからはからむし商品の開発と普及に努める。



左 / 大阪東洋さきの専門学校の学生たちが、からむしの苗を植え付け。上 / 皮から繊維を取り出す「学引き(おひき)」という作業を行う十日町の人たち。

設立年 / 1999年3月 従業員数 / 2人 2012年度の採用 / 無  
<http://www.karamushi.jp/>

30

upright company

株式会社 **博進堂**

[新潟県新潟市]



### 人と地域の絆を残すアルバムを。

学校の卒業をはじめ、結婚や退職など、人生の節目に記録を残すアルバム。博進堂では、アルバムを「一生の宝物」と考え、製品ではなく、人と人との関わりから生まれる作品として制作している。とくに、学校アルバムは、生徒の日常とともに地域の風景や街並みも掲載するので、何十年か後に振り返る貴重な資料にもなり得る。「災害に見舞われたとき、貴重品と一緒に持ち出すものとして挙げ

られるのがアルバムだと聞きます。人の記憶をひもとき、生きた証しを確認し、新たな一歩を踏み出す手助けになるからでしょう」と、社長の清水伸さんは話す。「未来開拓・天命支援・成長立命」を企業理念とする博進堂では、自主性と創意工夫の精神を培う「一人一研究」や、豊かな感情を育む「企業書初め」など、人材育成のための独自の社員教育にも力を入れている。



左 / 「学校大好きフォトコンテスト」の会場。上 / 研修施設「点塾」。会社の成長は社員の人間の成長にあるという考えのもと、多くの社員研修を実施。

設立年 / 1950年12月 従業員数 / 174人 2012年度の採用 / 有  
<http://www.hakushindo.jp/>

33

upright company

長野リネンサプライ株式会社

[長野県長野市]



### 障害指導課を設けて作業をサポート。

ホテルや病院のリネン、ユニフォームのクリーニングを手がける長野リネンサプライが、障害者を初めて採用したのは1979年。3名の重度身体障害者の職場実習を受け入れ、障害があっても作業ができることや、国家資格のクリーニング師に2名が合格したことから採用に踏み切った。その後も、障害者雇用をすすめる、現在は長野工場に25名、須坂工場に15名の社員が勤務する。

洗濯工程や仕上げ工程を担当する社員が多く、「勤続30年の社員が3名もいます。後輩に自ら進んで仕事を教え、繁忙期にはほかの仕事を手伝ったり。一生懸命働いていますよ」と、総務部次長の宮崎史雄さんは話す。93年には障害指導課を設置し、専門指導員と一緒に作業を行い、生活や余暇もサポートする体制を確立。2012年度は、その障害者指導員の採用を予定している。



左 / ノーマライゼーションの実践を目指す、長野リネンサプライの本社。上 / 和やかな雰囲気で行う作業をする、知的障害を持つ社員。洗濯した製品の仕上げの作業中。

設立年 / 1963年2月 従業員数 / 130人 2012年度の採用 / 有  
<http://www.naganolinen.co.jp/>

32

upright company

有限会社 **プランニング・ヤマコウ**

[福井県大野市]



### 再生紙管や繊維シートで太鼓づくり。

値段が高い、重いという理由による「太鼓ばなれ」を止めようと、再生紙管や繊維シートを取り入れた太鼓を製作するプランニング・ヤマコウ。縮太鼓の胴部分には自然木ではなく圧縮した紙管を、ヘッド部分には動物の皮ではなく繊維シートを採用したことで、和風と洋風のどちらの音も出せる独自の太鼓が誕生。コストも5分の1〜10分の1に低減した。ヘッドをカラフルにデザインした理由は、

「子どもからお年寄りまで、健常者も障害者も、太鼓の音を耳で、目で、五感で楽しみながら演奏してほしいから」と話す、社長の山内廣志さん。文部科学省が実施する「放課後子ども教室」では、市内の小学校の子どもたちに定期的に太鼓の演奏を指導中だ。大野市内の森山山麓には、ワークショップやライブスペースとして一般利用できる「耶麻鼓屋」をオープンしている。



左 / 再生紙管と繊維シート製の太鼓が置かれた「耶麻鼓屋」。自然のなかで太鼓を存分に楽しめる。上 / 大野市の小学校で月に2、3回行う「放課後子ども教室」。

設立年 / 2003年8月 従業員数 / 2人 2012年度の採用 / 無  
<http://www.yama-ko.com/>